

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>研究</p> <p>前年度より引き続き、予算管理の問題点について研究した。予算管理の問題点を解決する方法として提唱された脱予算管理でも指摘されていた予算達成のために不正をしてしまうという問題は、年功賃金がまだ残っている日本企業においては、予算未達が報酬に影響する程度も欧米企業に比べて少ないと考えられるので、あまり問題にならない可能性があると考えていた。しかし東芝では、不適切な会計処理が明るみに出た。その原因の一つとして「チャレンジ」と称した収益改善の目標値が示され、その目標必達を迫る経営者の姿勢が指摘されている。それに対して、東芝の第三者委員会の調査報告書などから、報酬に影響があるので不適切な会計をしてしまったというよりも企業風土に問題があったことが見えてきた。また東芝の第三者委員会の調査報告書で提言された再発防止策については、複数の防止策の間で摩擦が生じ、それぞれの力を十分に発揮できないこともあるのではないかという問題も検討した。</p> <p>研究成果は、『予算管理の問題点とその対策』として、高崎経済大学論集第 58 巻第 4 号に掲載される。</p> <p>教育</p> <p>簿記論については、中間試験を例年通り実施した。授業で使うプリントも一部新しいものにした。</p> <p>管理会計論については、授業で使うプリントを一部新しいものにした。試験前に、質問対応が増えた。</p> <p>例年通り夏休み中にゼミ合宿を行った。合宿では各チームに分かれてビジネスゲームを行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>学生賞罰委員会委員として委員会に参加した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>研究面では、引き続き予算管理の問題を様々な角度からいろいろなアプローチで検討していきたい。</p> <p>教育面では、わかりやすさを心がける。</p>	